

— 第11編 — 東と西の架け橋

アテネで暮らした1970年代の半ばあたりは、ギリシャとトルコの関係が悪化した頃であり、トルコに入国することは容易ではなかった。アテネからイスタンブールへの直行便などなかったのである。それだけ、かの地への想いは募るばかりであった。かねてより、東と西との接点に生まれた都市、そしてそこから領土を空前の規模に拡大して東西文化を融合させたオスマントルコの拠点をどうしてもこの目で見てみたいと思ったからだ。

そのチャンスは2000年を過ぎてやってきた。大きな国際会議に参加するためであった。少し長めに滞在して、この1400万人の人口を



写真 11-1 東西の接点ボスボラス海峡



写真 11-2 水辺のバスターミナル

擁するバルカン半島最大の都市を可能な限り歩き回った。数ある世界都市の中でも、かつてコンスタティノープルと呼ばれたこのまちが持つ魅力は、圧倒的な人間的な密度と都市的営みの濃密さである。長い時を超え、人々は文字通り東と西の接点である海峡を挟んで野心や欲望を漲らせながら集まったに違いない。それが、神聖ローマ帝国^{*1}であれオスマン帝国^{*2}であれ、想像もできない広範な版図を手中に獲得し治める中心となりえた所以であると思う。

1923年にアタテュルクがトルコ共和国を樹立しアンカラが首都となっても、誰もが知っているトプカプ宮殿や、アヤソフィアを初めとするモスク群や、グラランバザールなどを持つイスタンブールは大文字の世界都市であり続けてきた。そこに住み働く人々は心からこの都市を愛し、誇り、気取らない人間臭さをぷんぷんとさせながら勤しんだ。そして、このまちの持つ独特な雰囲気を作り上げてきたのである。私も妻もそこに魅かれて大ファンとなったことを付け加えておきたい。



写真 11-4 スルタンアメフト・モスク^{*3}



写真 11-3 下町の日常

*1
Holy Roman Empire
(692~1806)

*2
Ottoman Empire
(1299~1922)

*3
Sultan Ahmed
Mosque
(通称 Blue Mosque)
1616年建立